

令和3年度 病虫害防除技術情報 第7号

令和3年10月25日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴにおける微小害虫（ハダニ類・アブラムシ類・アザミウマ類）の防除について

今年の10月上旬は高温傾向であったため、イチゴにおける微小害虫（ハダニ類・アブラムシ類・アザミウマ類）の発生量が多く確認されています（表1、図1）。

上記害虫は、寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、早期発見に努めて速やかに防除を実施してください。

1. 発生の状況（10月中旬巡回調査）

表1 ハダニ類・アブラムシ類・アザミウマ類の発生状況

地域	高設・土耕	品種	調査日	ハダニ類		アブラムシ類		アザミウマ類	
				寄生株率 (%)	程度	寄生株率 (%)	程度	寄生花率 (%)	程度
東部	高設	ベリーツ	10/19	40.0	少	8.0	少	6.0	中
	高設	さがほのか	10/19	8.0	少	8.0	少	6.0	中
中部	高設	ゆふおとめ	10/19	84.0	多	0		0	
	高設	ベリーツ	10/18	0		0		2.0	少
	高設	ベリーツ	10/19	0		0		0	
	高設	ベリーツ	10/19	84.0	多	0		6.0	中
南部	高設	さがほのか	10/19	36.0	少	0		0	
	高設	さがほのか	10/19	8.0	少	0		0	
北部	高設	さがほのか	10/18	0		12.0	少	2.0	少
	高設	ベリーツ	10/20	0		0		0	
平均値				26.0	少	2.8	少	2.2	少
平年値				6.2	少	2.6	少	-	
発生程度別圃場率 (調査圃場数) 10			微	0%		0%		0%	
			少	40.0%		30.0%		20.0%	
			中	0%		0%		30.0%	
			多	20.0%		0%		0%	
			甚	0%		0%		0%	
少～甚発生圃場率				60.0%		30.0%		50.0%	
少～甚発生圃場率平年値				30.9%		15.0%		-	

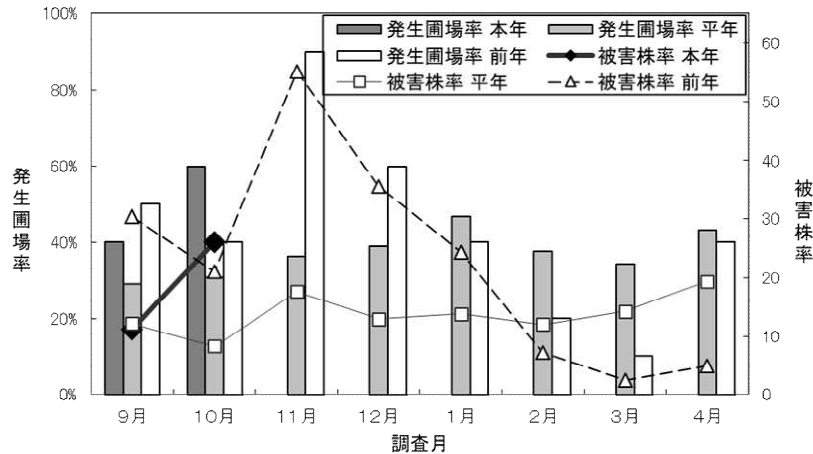


図1 ハダニ類の発生状況

2. 防除上の注意事項

- (1) 微小害虫（ハダニ類・アブラムシ類・アザミウマ類）は、薬剤抵抗性が発達している可能性が高いため、天敵（カブリダニ類等）を利用する。
- (2) すでに多発生が認められている圃場では、薬剤防除を複数回行い、害虫密度を低下させてから天敵を導入する。
- (3) 施設の閉め込み前までに、害虫密度を最小限にするよう努める。
- (4) 天敵に長期間影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に注意する。
- (5) 殺菌剤であっても天敵導入直後に薬剤散布すると影響が懸念されるため、期間を空ける。また、防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選択する。
- (6) 天敵に対する薬剤の影響は、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」を参照する。



ホームページアドレス <http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>

- (7) 受粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響を及ぼす薬剤があるため、薬剤の選定には注意する。
- (8) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」の「いちご」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。



ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>